



kumogakure

見えない向こうがわ、見える壁。

見える、見えない、見えない壁。



kumogakure

壁は不透明な塊として人々の前に立ちはたかる。
視覚情報の遮断という役割しか持たない“壁”は、透明で形のないものだった。

見えるということは、目に光が届くということ。
ならば光の進路を変えてしまえば、
不透明で大きな物質ではなくても
視線の制御という意味での壁がつけられるのではないか。

ここは海の中の美術館。
大きな1つの空間に現代アートの立体作品が点在する。
ホワイトキューブのような白くて大きな壁はどこにもない。
透明な海水が視線をコントロールする。

tsukurikata

光の屈折。
媒質による光の速度のずれ。
これを利用して見えない壁をつくる。

“空間”を隠すには
空気中と進行速度の大きなズレが必要。
そこで形は円形とした。

art を配置する。
その周りに作品を見る為のスペースをとる。
art からの距離は想定する作品の高さの2倍とした。

人の静視野を 90° として
他の art が視野に入ってくる範囲を探す。

その範囲のなかに art の像を
屈折させるように配置していく。

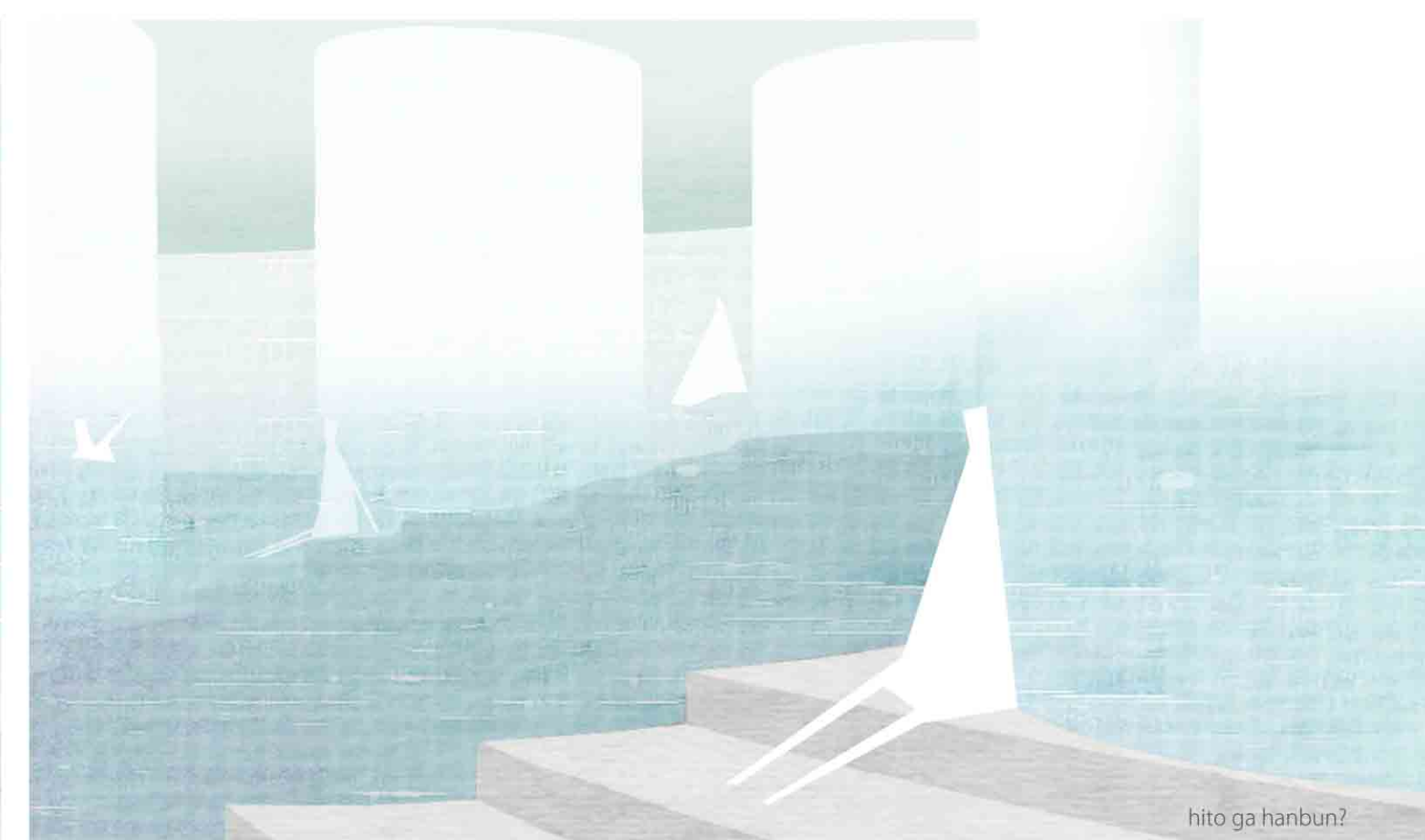
kusetsu patarn

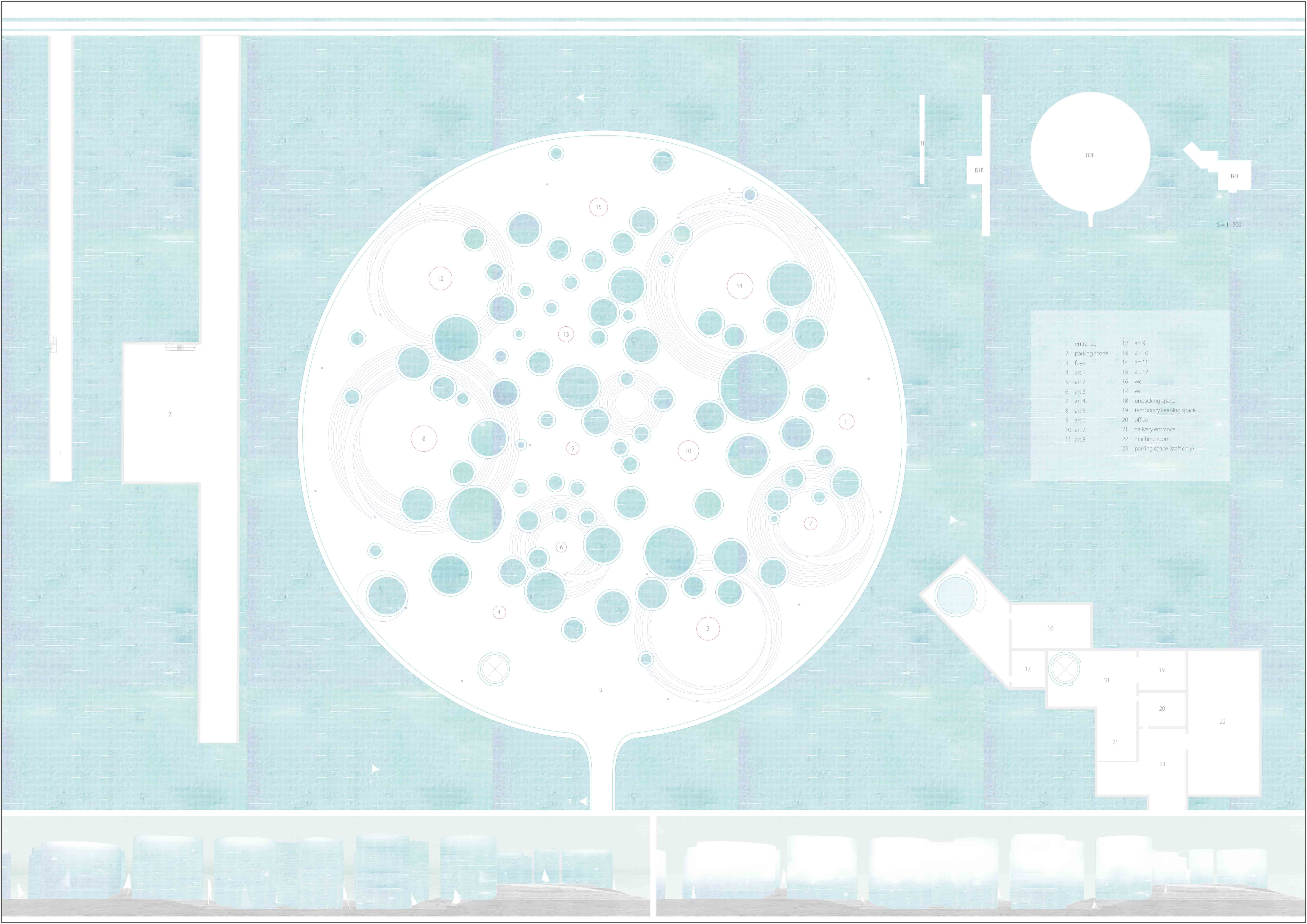
海水・アクリル・空気の屈折率の違い（海水）によって光の進路のズレをつくり出す。
入射角によってズレの大きさが異なる。その大きなズレを利用して大きなアート空間に視線の壁をつくり出す。

shiya to art

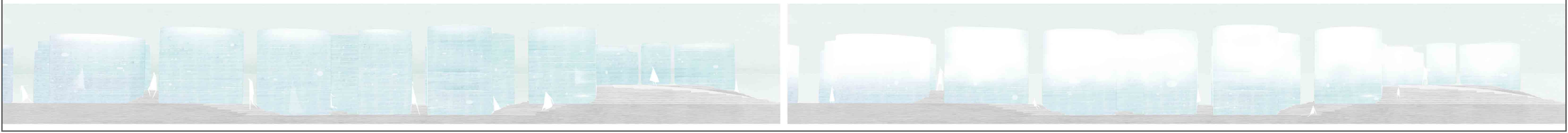
それぞれのアートを鑑賞する空間からの、他のアートへの視線関係。アートと結ばれた視野範囲に、視線をコントロールする透明な柱のようなものを並べていく。

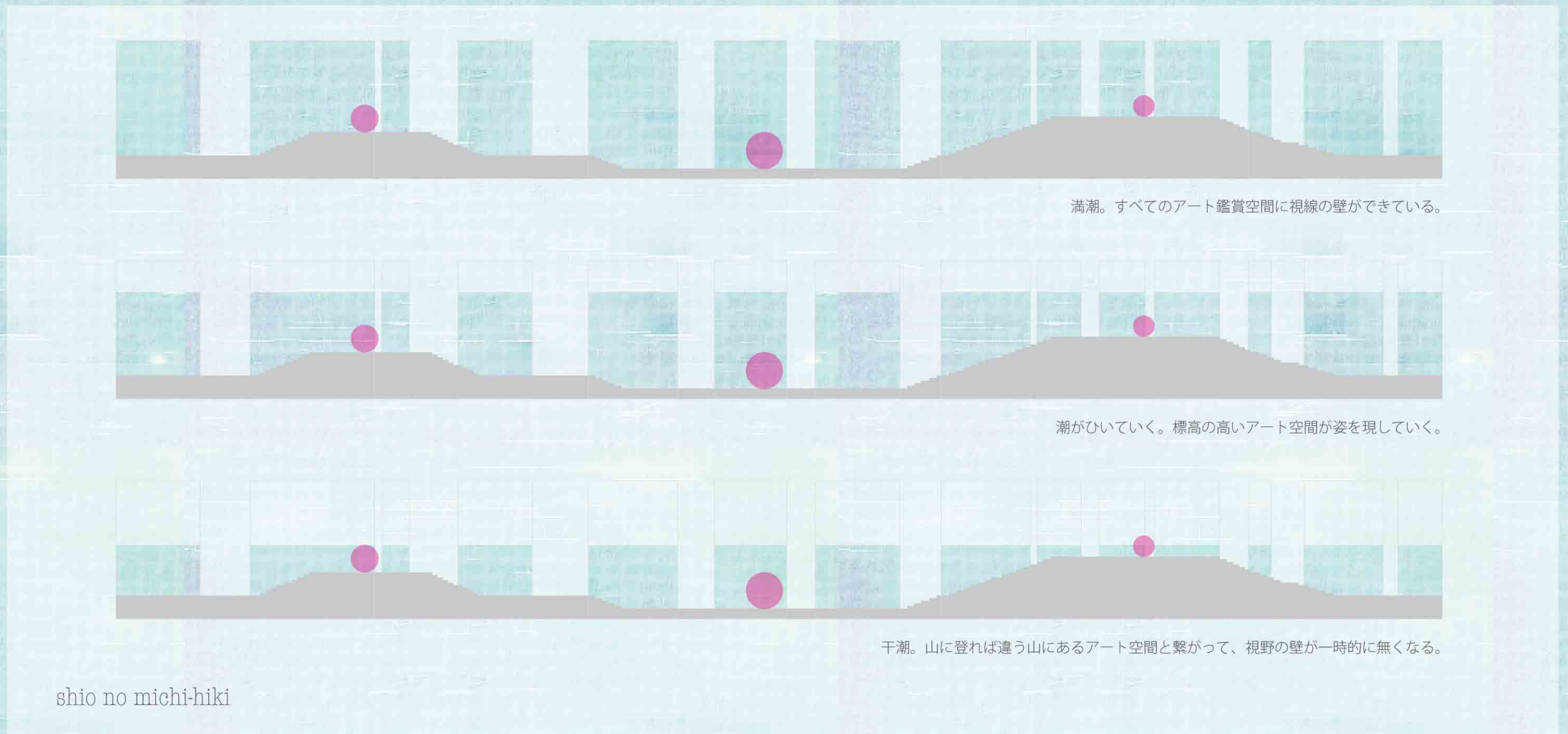
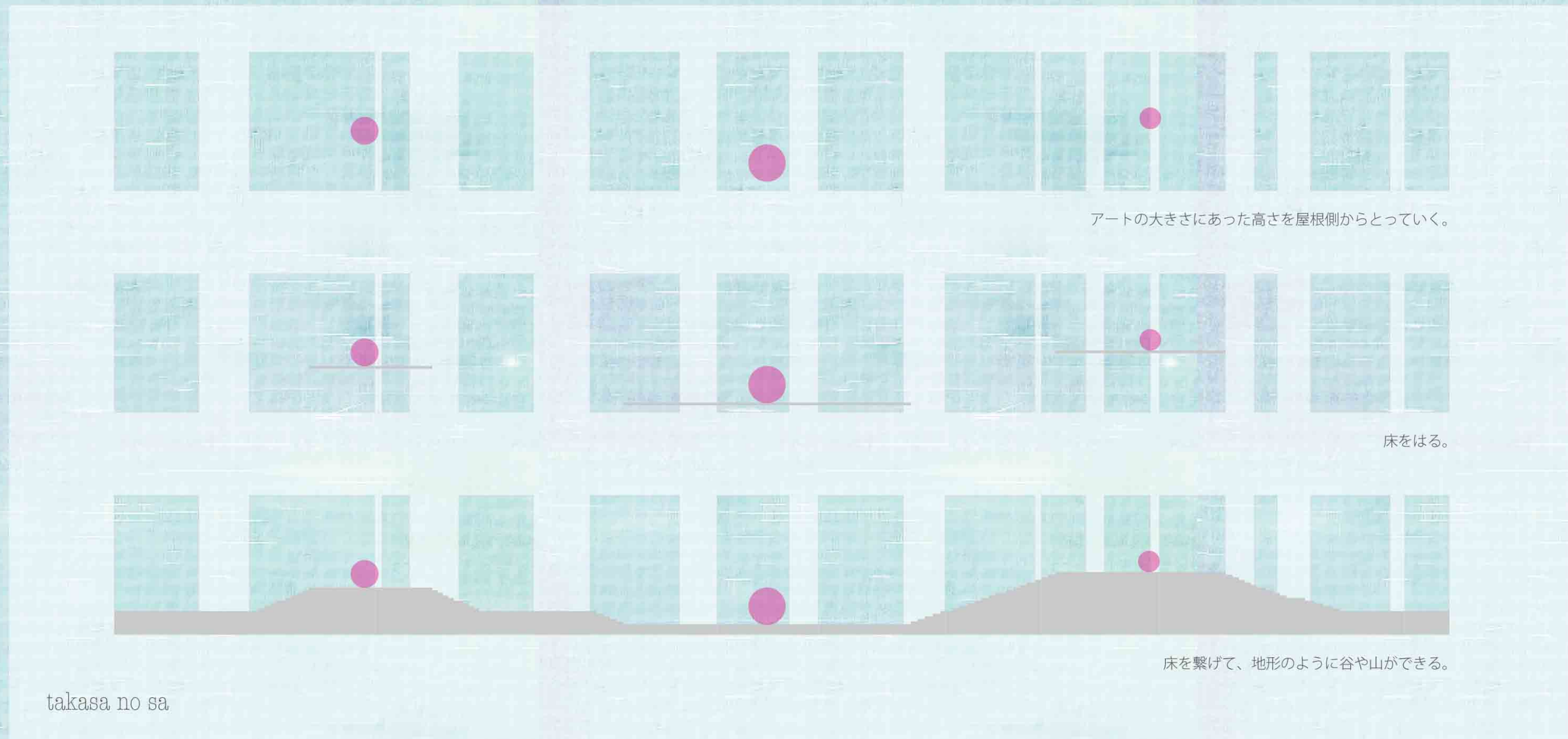
site plan S=1:500





- | | | | |
|----|---------------|----|----------------------------|
| 1 | entrance | 12 | art 9 |
| 2 | parking space | 13 | art 10 |
| 3 | foyer | 14 | art 11 |
| 4 | art 1 | 15 | art 12 |
| 5 | art 2 | 16 | wc |
| 6 | art 3 | 17 | wc |
| 7 | art 4 | 18 | unpacking space |
| 8 | art 5 | 19 | temporary keeping space |
| 9 | art 6 | 20 | office |
| 10 | art 7 | 21 | delivery entrance |
| 11 | art 8 | 22 | machine room |
| | | 23 | parking space (staff only) |



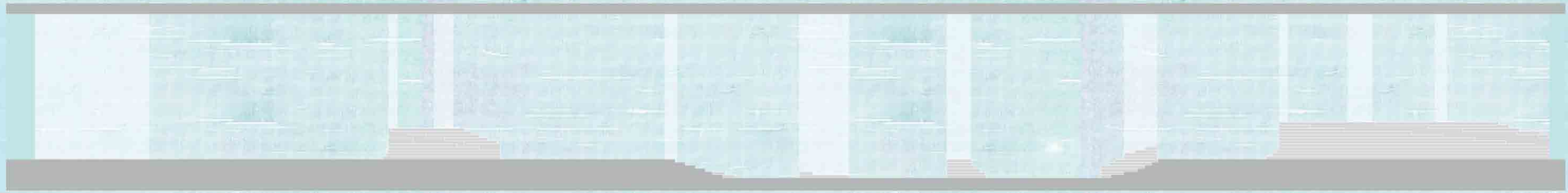


A-A' section S=1200 ▷

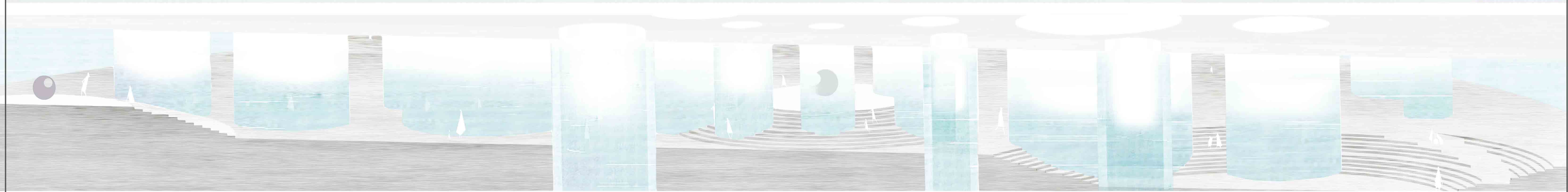
◁ B-B' section S=1500

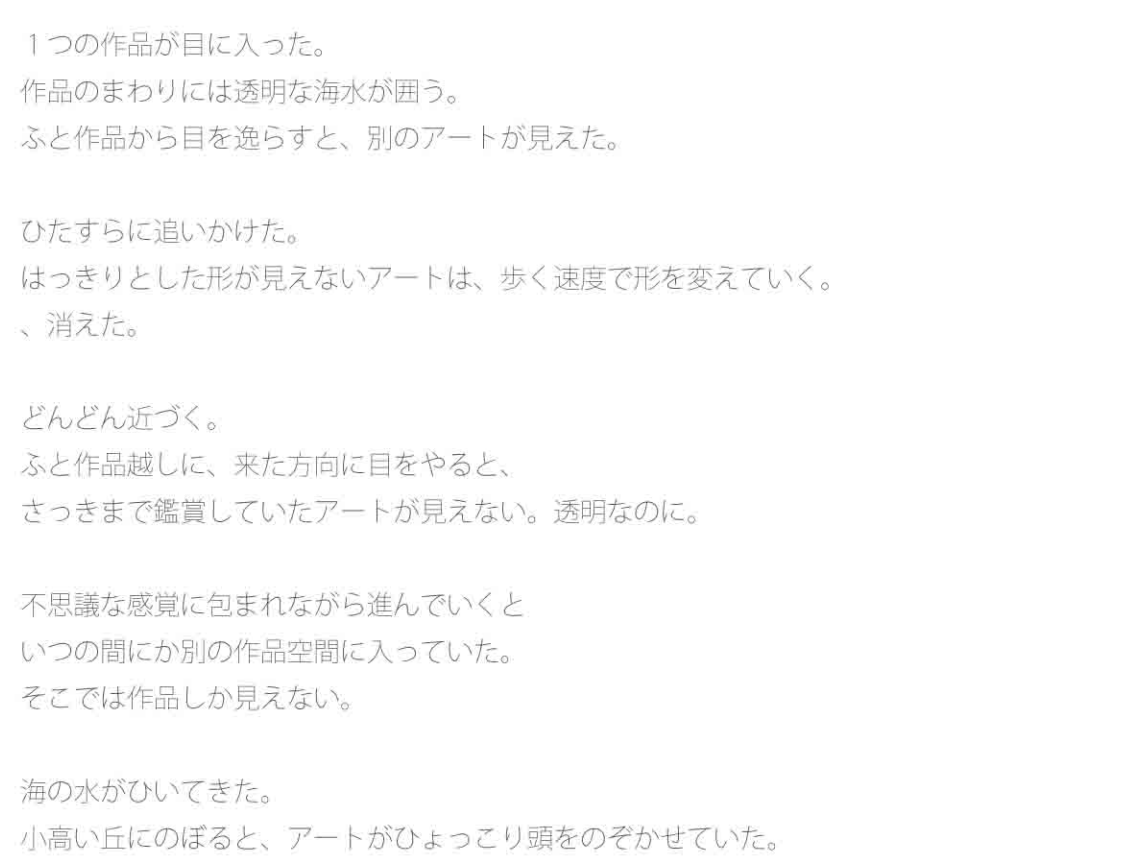
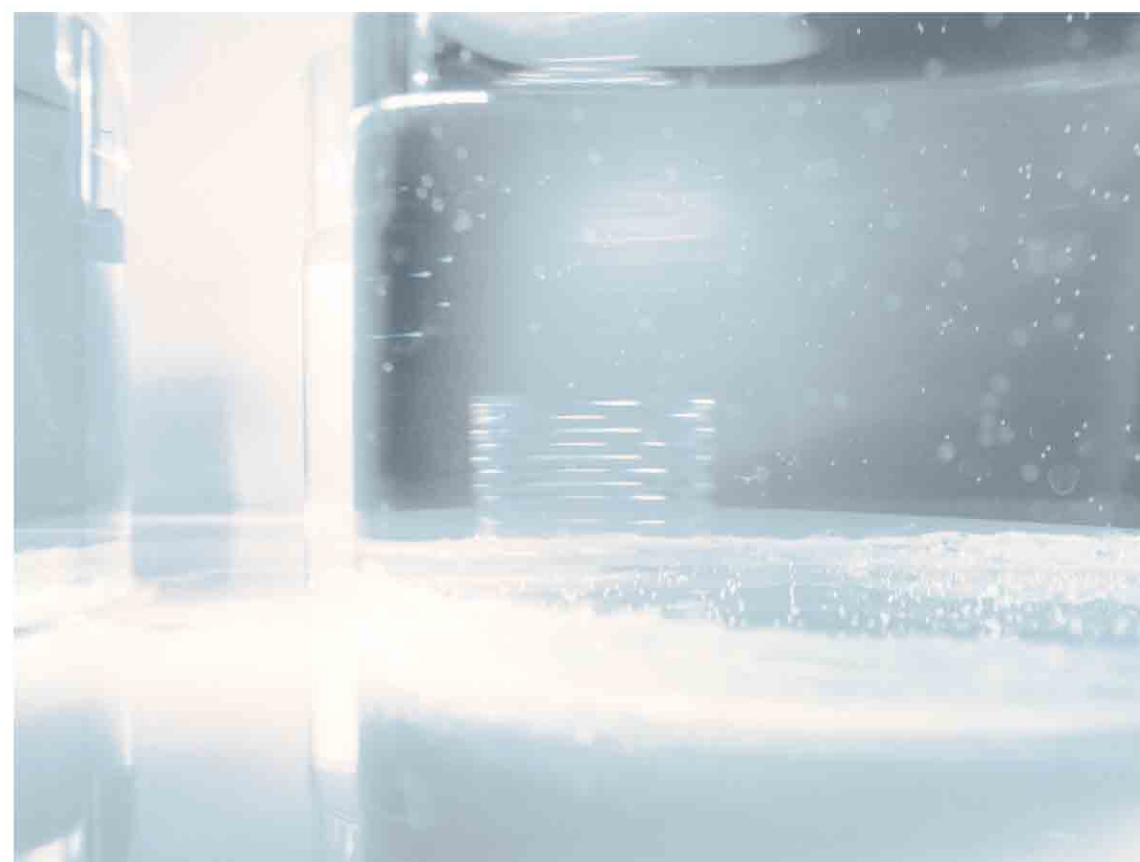
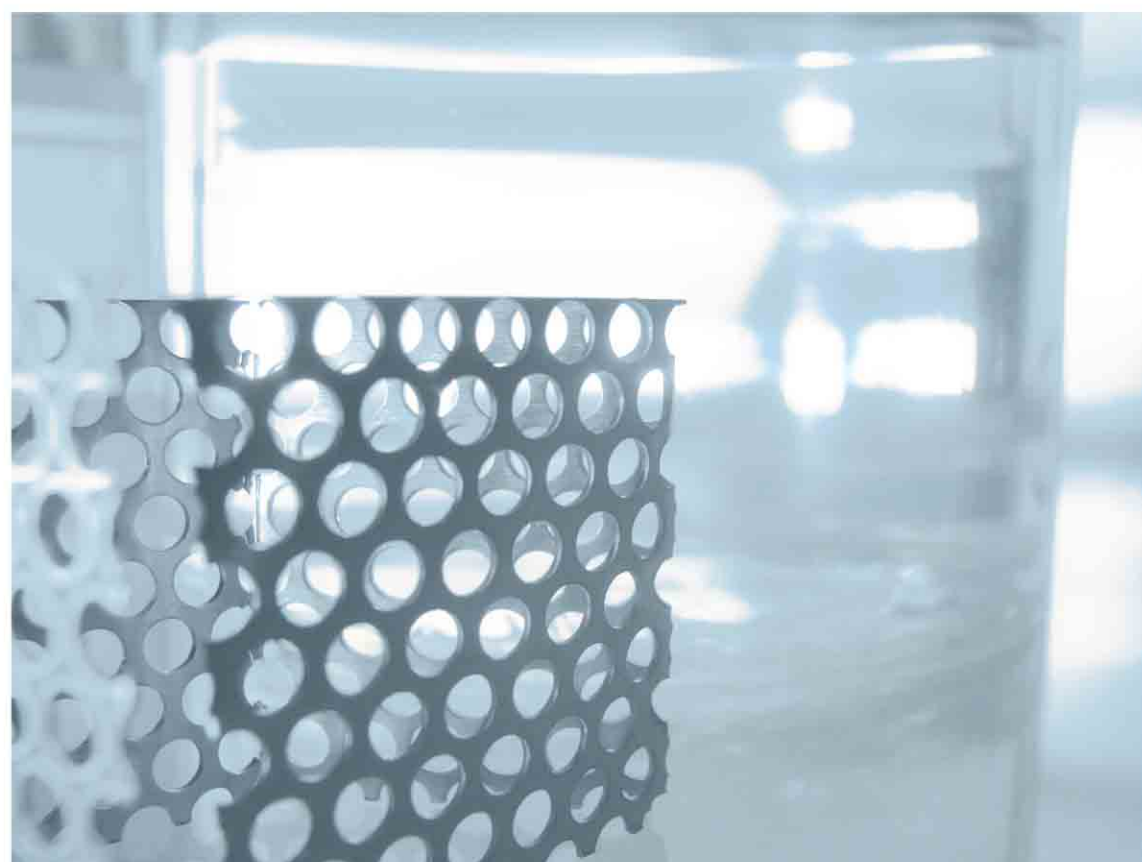
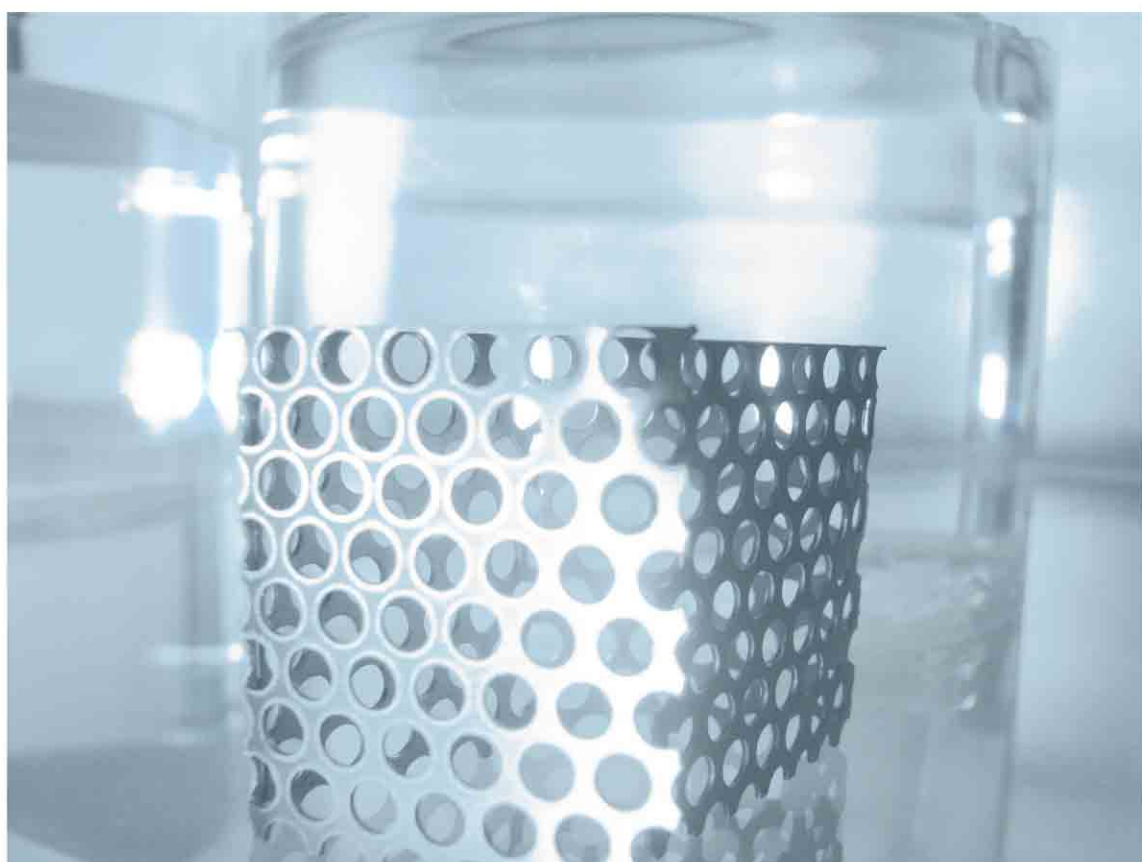
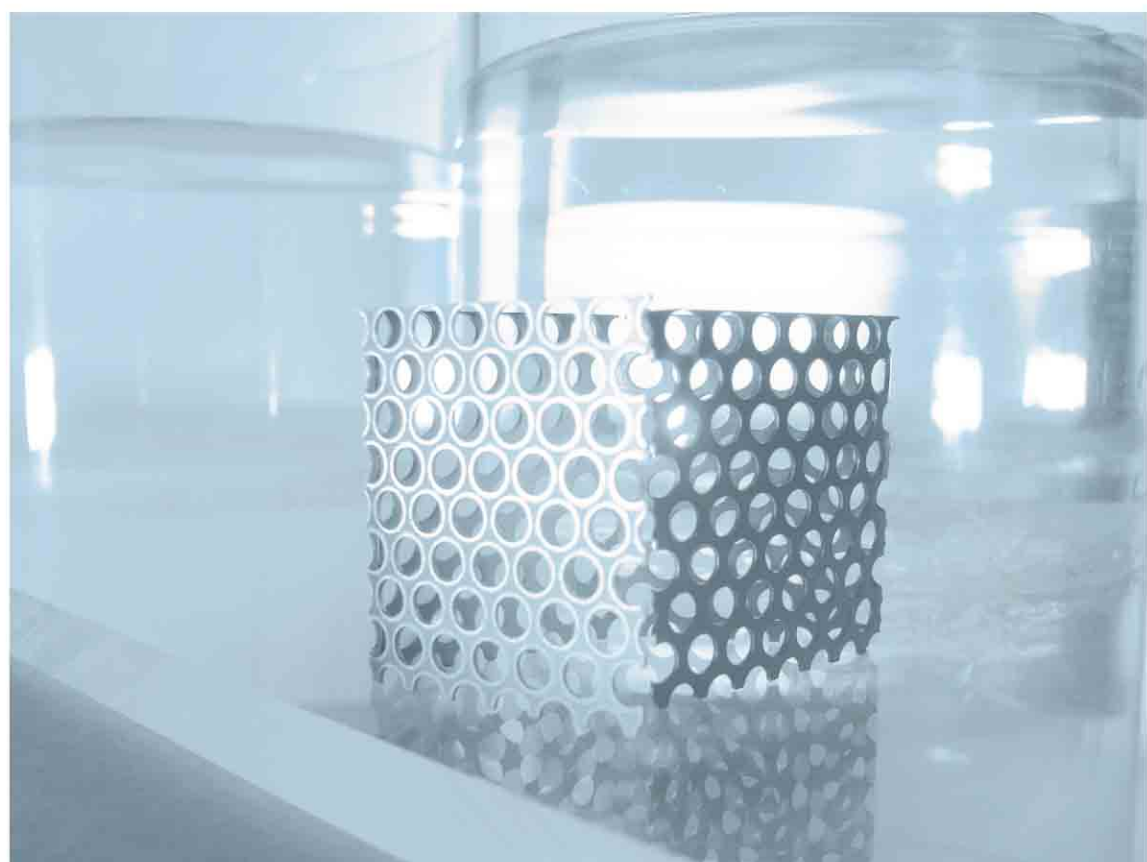
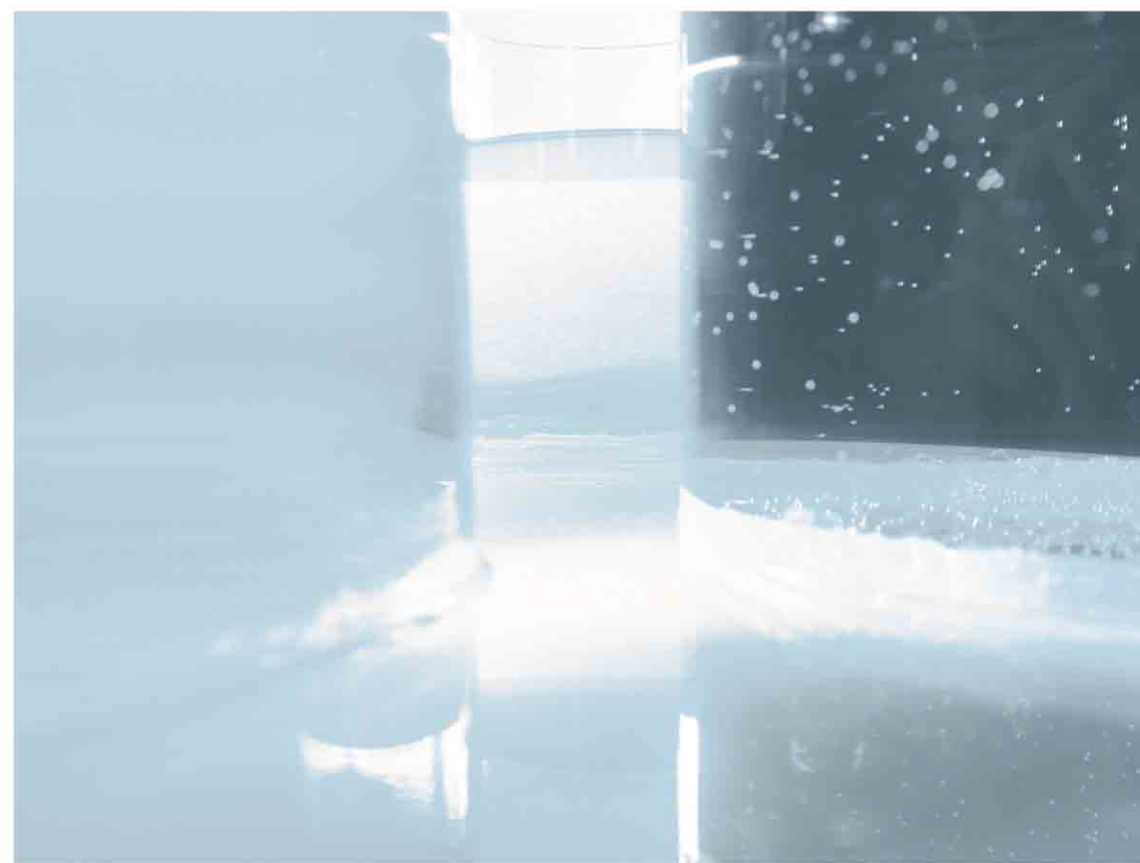
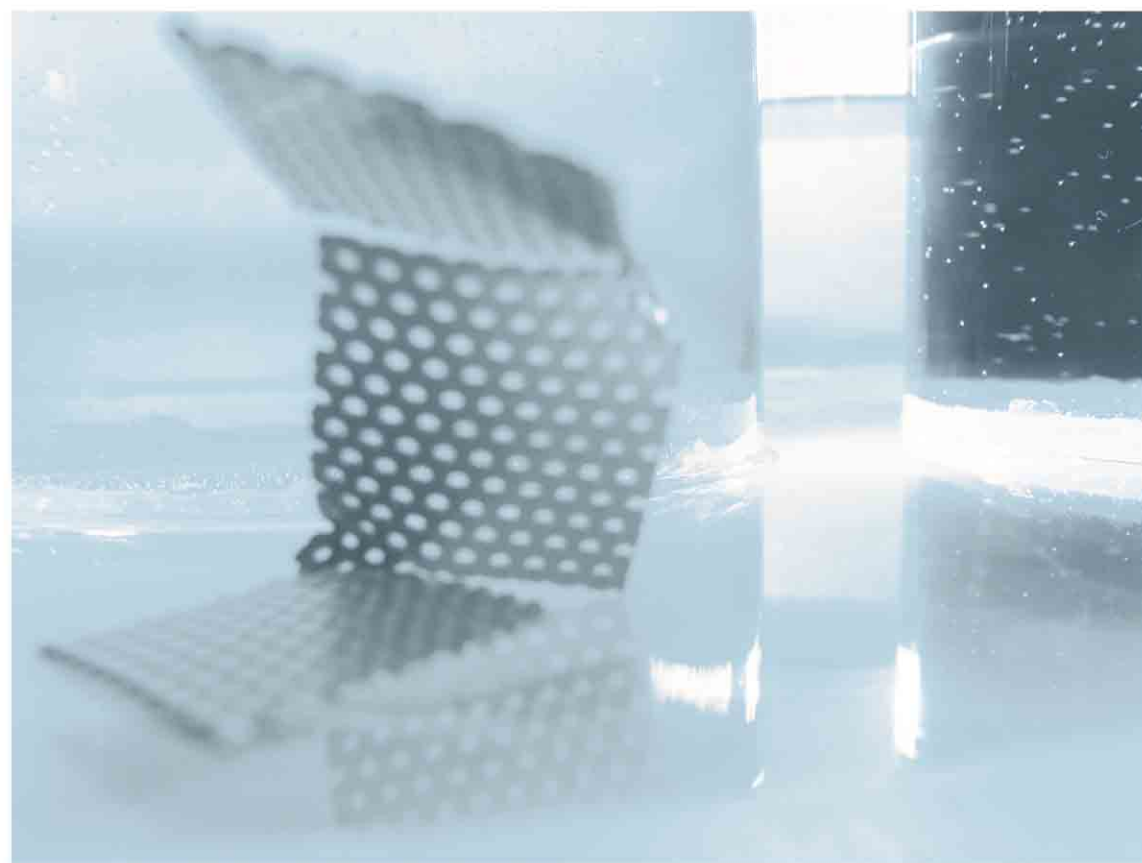
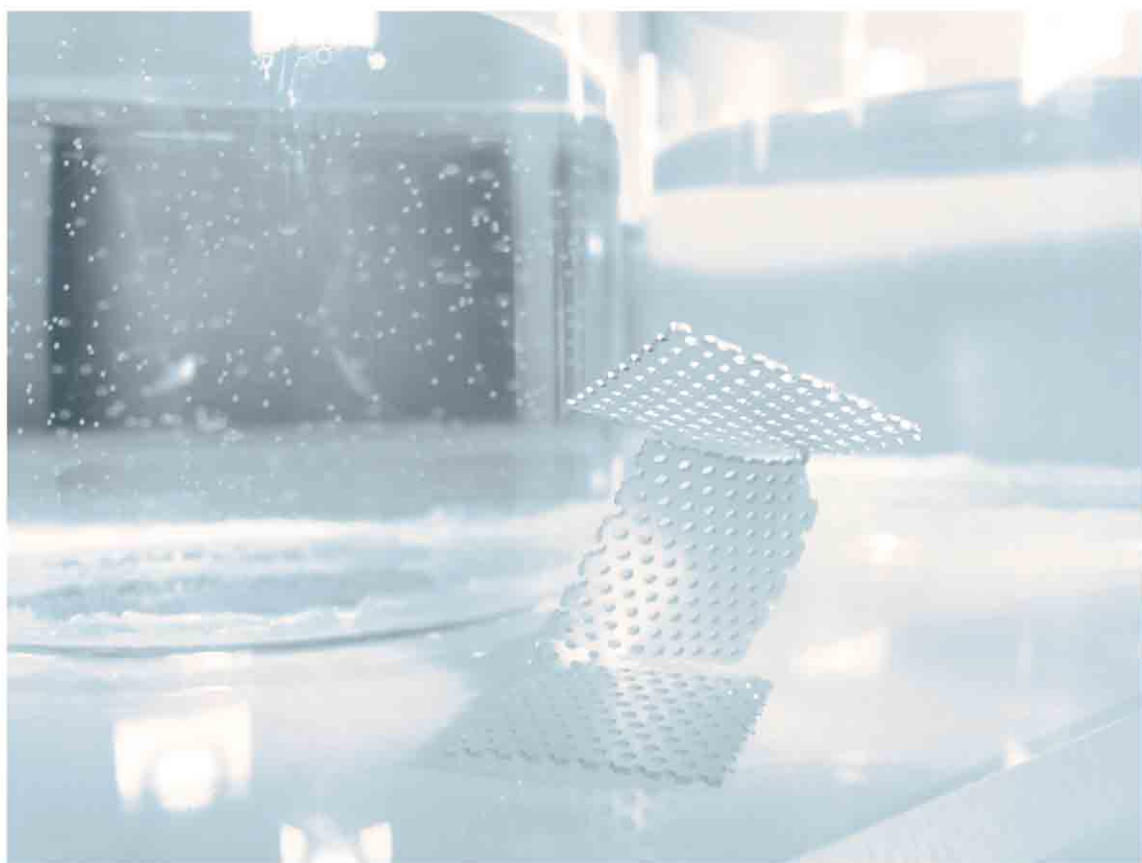
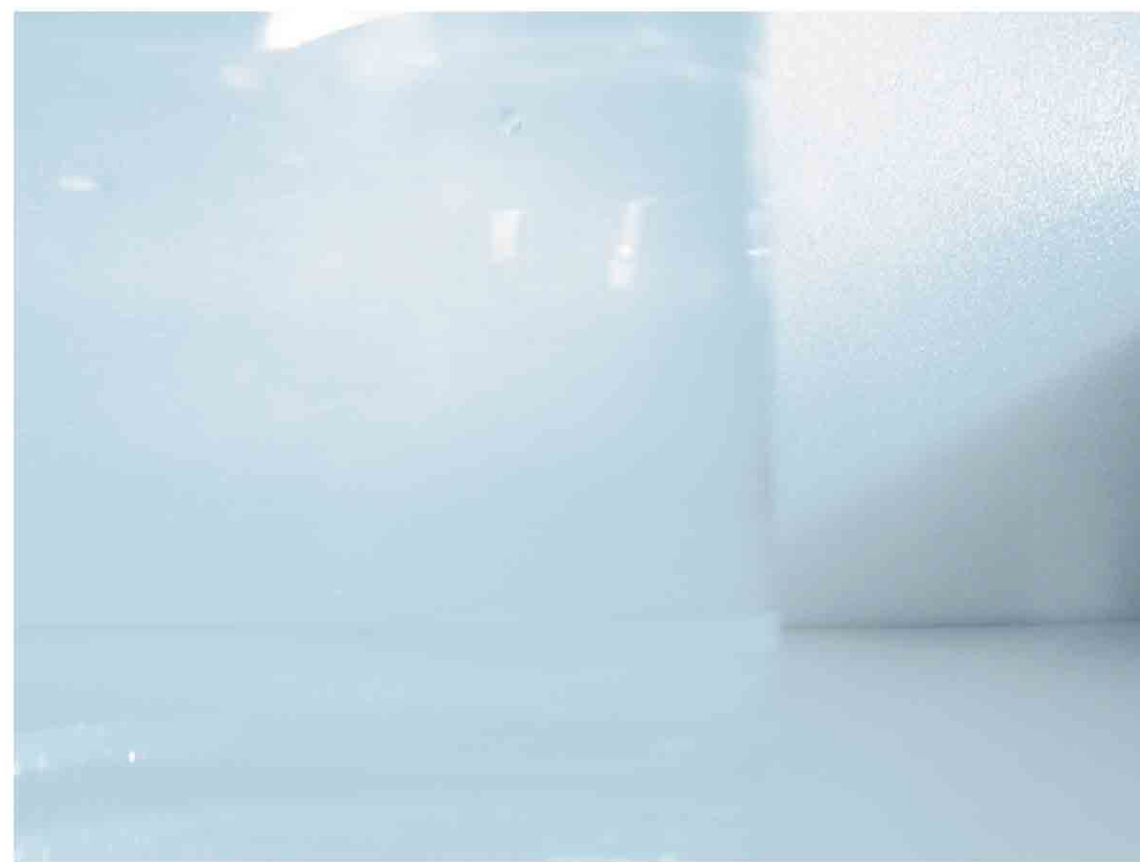
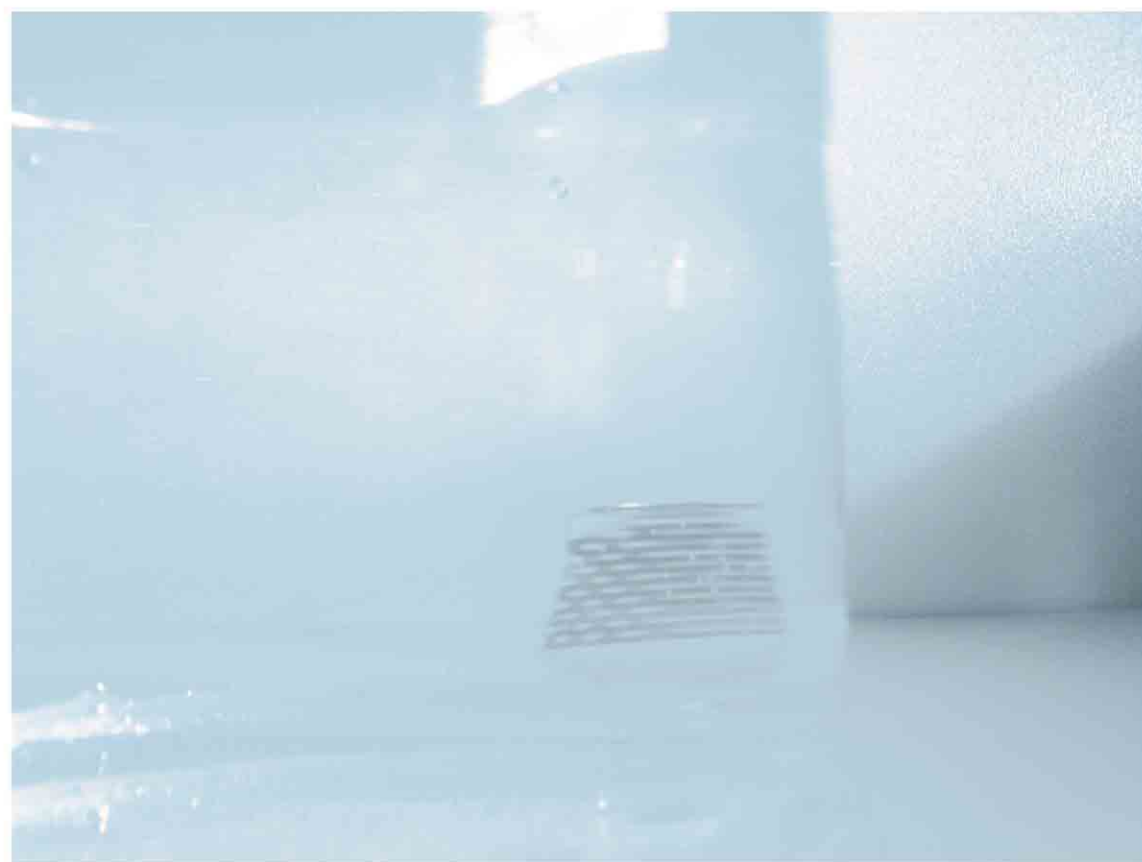
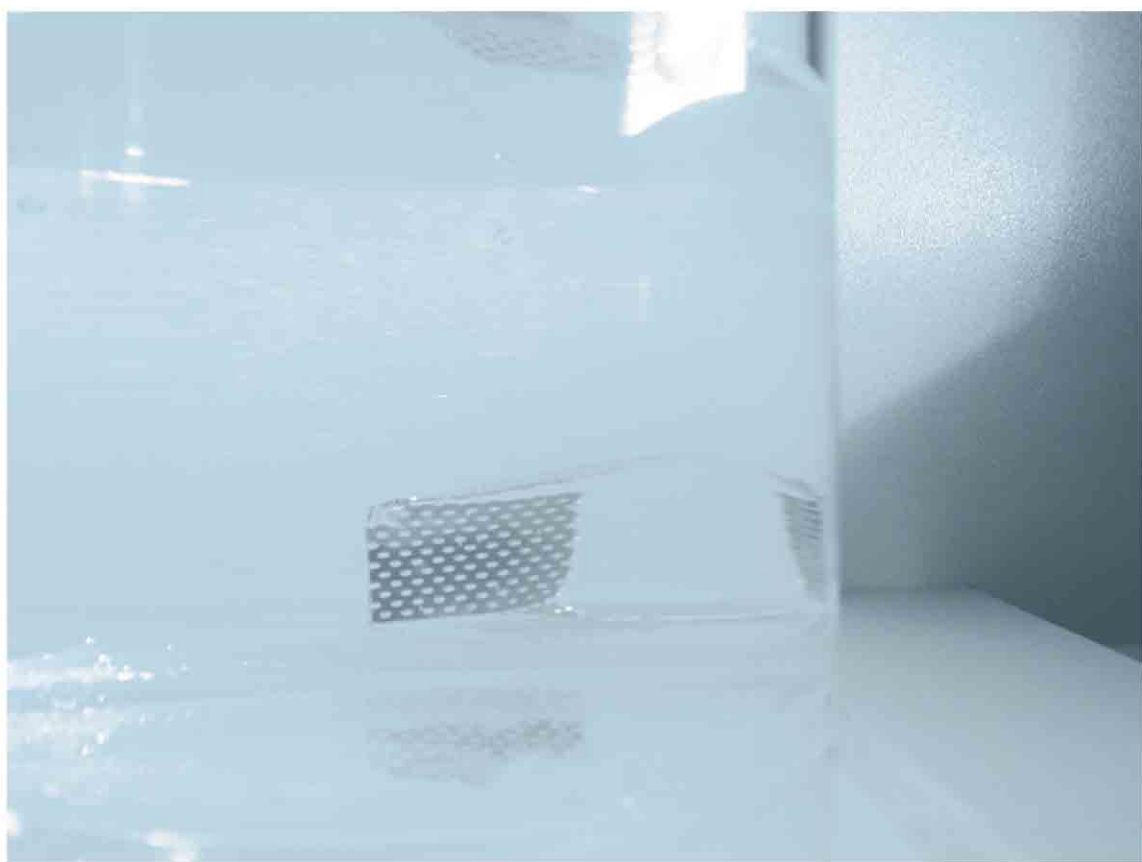
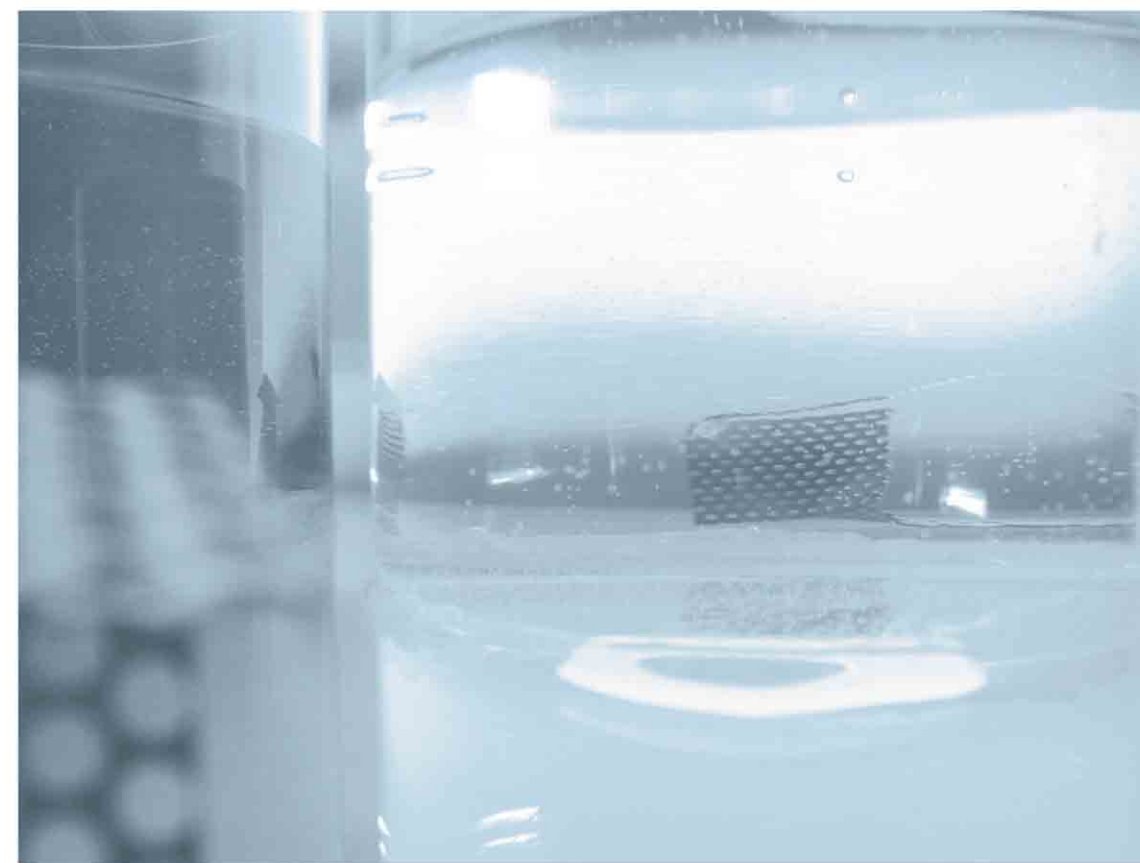
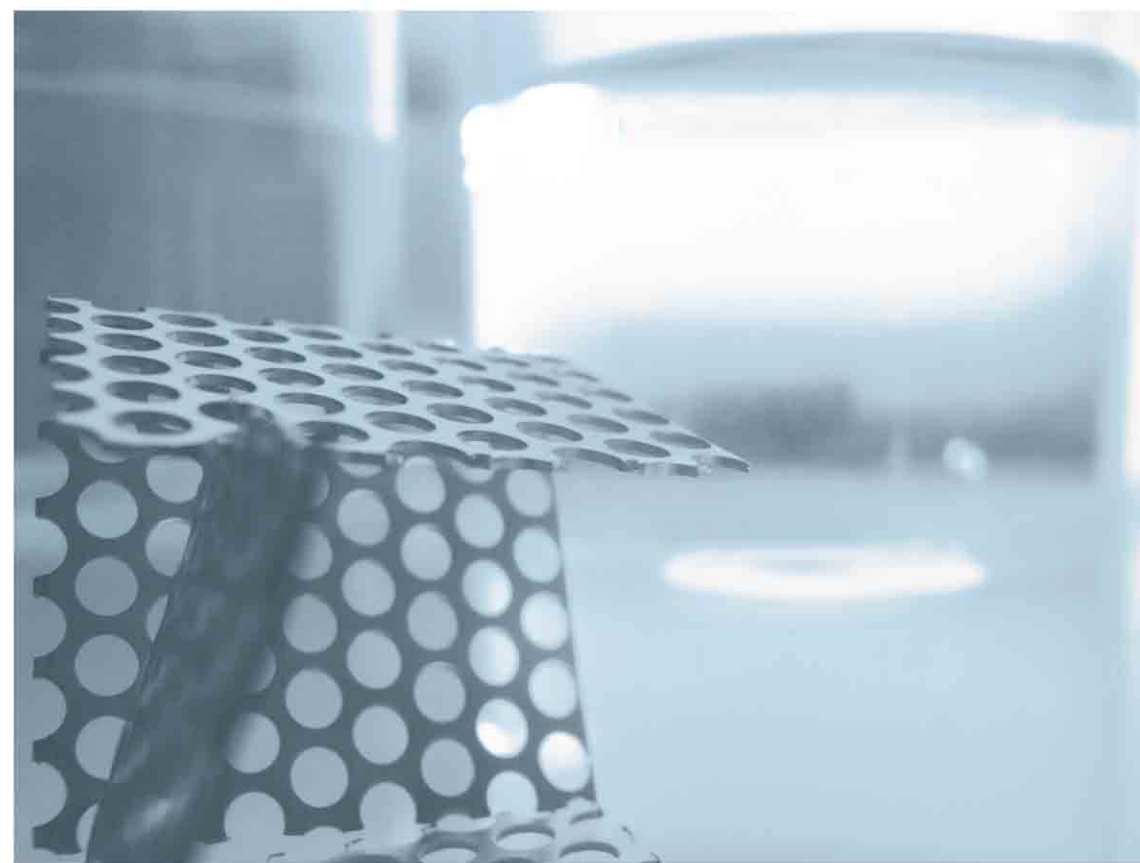
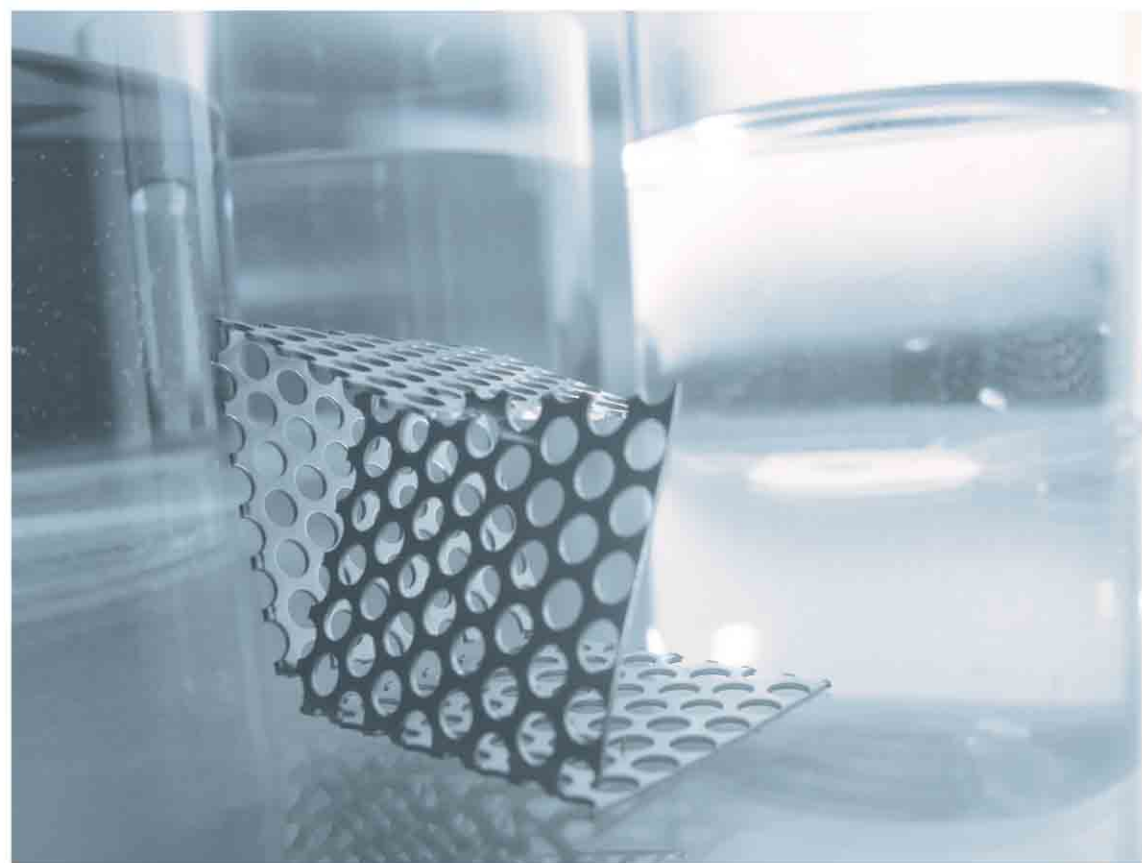
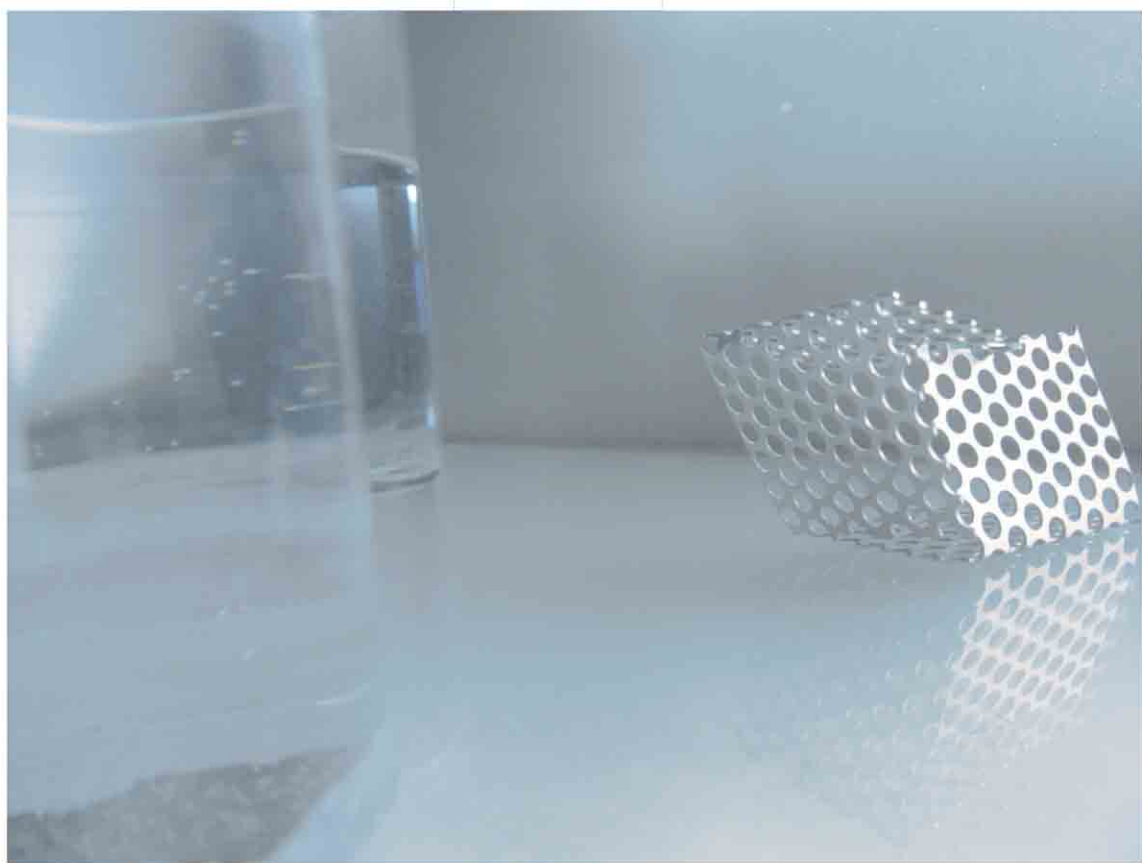
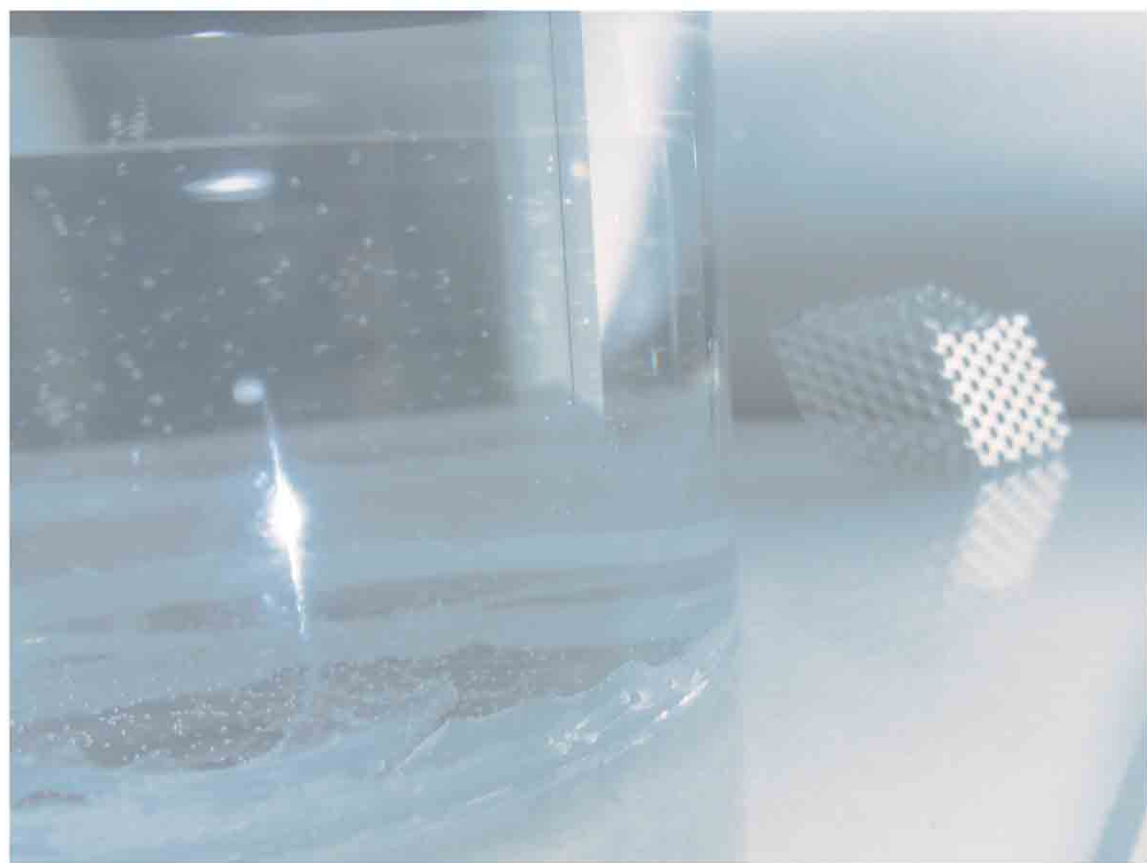
elevation 1 S=1200 ▷

▽ elevation 2 S=1500



- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1 entrance | 4 parking space (staff only) |
| 2 foyer | 5 office |
| 3 parking space | 6 temporary keeping space |





1つの作品が目に入った。
作品の周りには透明な海水が囲う。
ふと作品から目を逸らすと、別のアートが見えた。

ひたすらに追いかけた。
はっきりとした形が見えないアートは、歩く速度で形を変えていく。
、消えた。

どんどん近づく。
ふと作品越しに、来た方向に目をやると、
さっきまで鑑賞していたアートが見えない。透明なのに。

不思議な感覚に包まれながら進んでいくと
いつの間にか別の作品空間に入っていた。
そこでは作品しか見えない。

海の水がひいてきた。
小高い丘にのぼると、アートがひっそり頭をのぞかせていた。